**説教20230702ローマ6：3-11マタイ10：34-42「小さな者と、小さなこと」**

**復活されたイエス様は人々の真ん中に立って、「あなたがたに平和があるように」と言われました。そして人々は恐れおののきつつも、喜びに満たされていきました。この様にイエス様を受け入れた相応しい人たちに、イエス様は主の平和をお与えになられる、平和の主であります。その平和の主イエス様の今日の御言葉は剣の様に鋭いです。**

**「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。」**

**私たちは、この御言葉にもよく聞いて、平和の主イエス様のことを益々良く知って参りたいと願います。**

**「神はわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。」これは先週の説教で採り上げられたヨブ記の聖句でありますが、私たちはこの様に確信をして救い主イエス様の道を日々イエス様と共に歩んでいます。しかしその道行きは時として、主が完璧で全能であるがゆえに、かえって私達を怯えさせ恐れされることにもなります。**

**私は先週火曜日の夜、横になっている時、突然、天と地の全てのものが、イエス様を中心にぐるぐると廻りだし、どこにも身の置き所がなく、これ以上にない船酔いの恐ろしさを味わいました。それで、私は、隣りに居られるイエス様にすがりついて、思わずあなたこそ主なる神、イエス様ですと叫びました。そうすると、天と地の中心におられるイエス様は少しも動かされることなくそこに居られ、将に救いの岩であり、慈しみと憐みの内に眠っておられたのでした。それで私も安心をして、イエス様と共に眠りにつくことが出来ました。**

**今、ご紹介しました私のイエス様による救いの体験は、私の心の中で起った出来事でありますが、そのことを今ここでお話をし、この口でイエスは主であると告白し、その言葉を聞いた人が、一人また一人と、新しくキリストの体に加えられていく。このことが主イエスの救いの御計画であり、主の平和が実現をしていく事であります。**

**主イエスはわたしたちの歩む道を／全て知っておられます。**

**「わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに。こうして、自分の家族の者が敵となる。」**

**イエス様がこう語られる家族のありさまは、昨今のニュースなどを見ておりますと、残念ながらありふれた様子になってしまいました。今日的な言葉で言えばそこにはハラスメントがあり、人が人を支配しようとする傲慢の霊があります。そして平和の主イエス様は、もちろんこのような状況をそのままにしておかれることはないのです。**

**「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。」**

**この様にイエス様は家族の愛について語られます。この聖句も、この世の愛にしがみつこうとする私たち人間には、受け入れることにためらうことがあるかも知れません。しかし、この聖句もよく味わって理解すれば、私たちがこの世の執着的な愛を離れて、イエス様を愛する愛によって、父や母そして息子や娘を愛して行きなさいというイエス様の愛の勧めであることが判ると思います。それは酔いしれるような愛ではない、動かされることがない愛の勧めであります。**

**「平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。」このようにイエス様は言われましたが、これは勿論、イエス様ご自身がその剣を振りかざして力によってこの世の支配者を打ち倒されたのではありません。その正反対のことが十字架にあって起こりました。その剣は傲慢で無知な人々の手に握られて、そのは、イエス様の罪なき御体に突き刺さったのでした。**

**イエス様はこうして十字架で死なれたのでしたが、それは今日のローマ書に書いてある通り、イエス様は、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して今も生きておられるのです。**

**この様にイエス様ご自身も父なる神に対して従順に歩まれました。私たちもイエス様に倣って、自分の十字架を担って、この世をイエス様と共に従順に歩む時、各々の内に今ある傲慢さが打ち砕かれていくでしょう。**

**私たちは、十字架の死の先に続いている復活の命、その祝福と平和に満ちた世界に入れられることを確信しながらも、なおこの世の歩みに在って、おそれから完全に解放されることがありません。**

**私たちは「主イエスはわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。」と確信しながらも、主イエスにすがりつこうとせず、十字架の先の道が見通せない不安から、今ここにある、人が人を支配する罪多き世界を平和であると思い込んで、あくまでそこに留まろうと頑張ってしまいます。**

**先週読みました、詩編76編は、人々の傲慢による、力による支配が、主の平和からは程遠いことであり、主による救いから外れている道であることを歌っています。**

**詩編76編8節以下をお読みします。**

**あなたこそ、あなたこそ恐るべき方。怒りを発せられるとき、誰が御前に立ちえよう。**

**あなたは天から裁きを告知し／地は畏れて鎮まる。**

**神は裁きを行うために立ち上がり／地の貧しい人をすべて救われる。**

**この様に、主イエス様は、この地で傲慢に力を振るおうとする者ではなくて、地の貧しい人を救われようとしているのです。ここで注意しておかねばならないのは、地の貧しい人と言うのは、金銭的に豊かであるとか乏しいとかいうことを言っているのではありません。それは関係がないことで、詩編が語っている貧しい人とは、神の御言葉にいつも飢え渇いて、いつも御言葉を渇望して追い求めながら生きている人たちのことであります。今の世で言えば御言葉に飢え渇く私たちクリスチャンも貧しい人たちであります。**

**イエス様ご自身も山上の垂訓で「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」と言って貧しい者たちを祝福されています。**

**私たちのこの地上の歩みは、日々、イエス様によって自らの傲慢の罪を打ち砕かれて、貧しく小さな者とされていく事によって、日々新しい命を歩んで行く、そのような救いの道なのです。**

**イエス様は言われます。マタイ福音書 10章 42節**

**はっきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」**

**この御言葉には、傲慢さを打ち砕かれた小さい者たちが行うことが出来る愛の業の実際が判りやすく説かれています。自分の小ささ、貧しさをわきまえ、恐れることなく救い主イエスキリストにすがりつく者はその都度、救われます。そして神の愛を知ることが出来るでしょう。そしてその本当の救いを知った者は、最早迷うことなく、イエス様へ立ち帰り、その都度救われる、救いの道を歩むことになるのです。小さなものは、自分の限界を知らされます。人間が人間を救えるものではないということを知らされます。そうして、自分が今出来る範囲での小さな隣人愛の実践をするように導かれるのではないでしょうか。イエス様は「小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人」という御言葉で、私たちの隣人愛の実践が、小さな事であっても、或いは人から顧みられることなく評価されないことであっても、必ずイエス様の道に在って実を結ぶのだということを約束されています。**

**この「小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人」という御言葉で思い起こされるのが、マタイ福音書25章に記されている次の有名な御言葉です。**

**２５章34節以下をお読みしますが、ここに語られています王様とはまことの王様であるイエスさまのことです。**

**そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』**

**すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。**

**いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』**

**そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』**

**これは、イエス様から喜ばれるというこの上ない祝福が、この小さな者たちに与えられた場面でありますが、この様に、私たちが傲慢であることの罪を打ち砕かれて、小さなものにされるということはこの上ない祝福であります。**

**私たちは、この地上生涯に在って、目に見える祝福が実現することを期待し、その実現のためにあれこれ行動してしまう者たちでありますが、主イエスが私たちに与えられるこの上ない祝福とはそのような行いで得られることでないことが言われています。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』と主イエスは小さい者たちに言われます。小さい者たちはこれらの行いを、別に人に褒められようとか、イエス様に褒められようとかしてやっていたわけではありませんでした。或る意味、小さな人たちはこれらの行いを習慣づけられて自ら深く考えることなく行っていたのでしょう。言葉をかえていえば、小さな者たちは、キリストイエスに結ばれて、神に対して生きているので、内なるキリストがこのような行いへと導いて下さったと言えるでしょう。**

**キリストイエスに結ばれると聞くと、それは自分自身を失うことではないのかと恐れを抱かれる方もおありでしょう。どんな時でも、命に新しい扉が開かれ、その向こう側へと歩んで行くには恐れが伴うものです。**

**しかし、主イエス様はご自身が救いの岩となり、あなたを常に守って下さいます。又、多くの小さな者たちを用いて、あなたを洗礼へと導いて下さいます。私たち一人ひとりは小さな者たちであり、その出来る業はまことに小さな事どもです。しかし、それを用いて下さっている主イエス様が全てのことを組み合わせ、万事を易として、全ての小さな者たちを救いへと導いて下さることでしょう。そのことを信じて、私たち小さな者は、御心に適った小さな事を今日も行って参りたいと願います。**

**祈り**

**父なる神よ、私たちは一人ひとり小さく貧しいものです。それゆえにいつもあなたの御言葉に飢え渇き、あなたを追い求めています。どうかそのような私たち一人ひとりをあなたが引き寄せ、その都度、救いへと導き返して下さい。**

**主よ、あなたは、私たちが打ち砕かれ、罪を悔いる心をられません。どうか私たちが恐れることなく恥じることなく、十字架への道を一歩一歩進めていく事が出来ますよう導いて下さい。**

**主よ、どうか私たちの傲慢の霊を打ち砕いて下さい。従順にあなたに従う霊によって、私たちの命を新しくし、その行いの一つひとつによって小さな平和を実現していく事が出来ますよう、私たちに勇気と力をお与えください。**

**救いの岩であるあなたは、どんな大雨にも、嵐にも揺らぐことがなく、あなたに寄りすがる者たちを、死の陰の谷から救い出して下さいます。私たちが、その姿は見えませんが、各自のすぐ隣に居られる御子イエスによって、常に救われますように。**

**又、その救いの体験を告白し、あなたの御国が、今ここにも形作られていきますよう、どうぞ導いて下さい。私たちに語る言葉をお与えください。洗礼を受け、キリストの聖餐へと招かれている喜びを、この世にあって証ししていく事が出来ますように。**

**父と聖霊と共に**